

国際会議から

鉄道の衝突安全に関する国際会議  
(Passive Safety 2019)

鉄道の衝突安全に関する国際会議に参加しました。本会議では、衝突などの事故時においても乗客・乗員の被害を抑えるという観点でさまざまな発表が行われます。欧州規格策定に向けた検討内容が発表されることもあり、本分野の研究の方向性を把握するには絶好の会議です。

本会議では、車体構造や車内設備の設計や評価に関わるもの、事故調査による乗客の被害状況の分析など、幅広い発表と議論が行われました。筆者は、ロングシートに着座している乗客の安全性に関する研究を発表しました。欧州は本分野で日本より先行していますが、クロスシートの乗客の安全性を中心に検討しており、ロングシートの乗客の安全性評価方法は確立されていません（欧州の地下鉄はロングシートの採用例が多いにもかかわらず）。そのため、発表内容に非常に興味をもたれ、さまざまな参加者と情報交換を行う機会が得られました。

通常の学会発表ですとプレゼンと質疑応答で終わりですが、本会議は、その日の全プログラム終了後に発表者全員が会場前に立ち、司会者からの急な質問に答えるという時間があります。筆者は今後の研究計画について質問を受け、あたふたしながらも答えました。次回以降も、欧州の最新動向の収集ならびに研究発信のため、参加したいと考えています。



中井一馬  
人間科学研究部 人間工学研究室  
主任研究員



司会者からの質問に答える筆者

正式名称：12th international  
symposium on PASSIVE  
SAFETY of RAIL  
VEHICLES  
開催国：ドイツ(ベルリン)  
期間：2019年5月9日～10日  
主催：IFV Bahntechnik  
開催頻度：2年に1回程度  
次回開催予定：2021年5月 ドイツ  
ホームページURL：[https://ifv-  
bahntechnik.de/  
passive-safety/](https://ifv-bahntechnik.de/passive-safety/)